

## その2「タイ環境教育キャンプ2013」旅行記

森垣 登美子さん

今回のタイ環境学習キャンプの日本からの参加者は3名で8月17日から26日まででした。成田を8月17日のお昼頃 HIS のチャーター便で出発したのですが、こんなシンプルな飛行機に乗ったことは最近にないはずはバンコクまでの安全飛行を祈りました。

無事バンコクに到着してスリワットさんの出迎えを受けホテルに行く途中夕食をごちそうになりました。スリワットさんはとても真面目な大学教授という印象でした。ごちそうになったタイ料理は今まで食べたことないほどおいしい高級タイ料理でした。この店の客はタイのお金持の客らしく小学生らしき子供たちは各自 iPad でそれぞれゲームをしているのか何をしているのかわかりませんでした。日本の子供たちより高級品を持ってという印象を受けました。

大学内のホテルは清潔で不足なく過ごすことが出来ました。翌朝朝食をホテルで済ませているとシナタットさんとラダワンさんが見えて歓迎して下さいました。また通訳をして下さる若林さんと若林さんのタイ人の奥さんも見え、パンダキャンプのシリボンさんの奥さんと息子さんと娘さんもバンでお迎えに来て

下さいました。

私たち一行はシリボンさん家族3人と若林さんご夫妻と合計8人となりパンダキャンプに向かいました。その途中サムチュク百年古市場に寄り、ここで昼食をして市場を見て回りました。食事をした食堂の下の川のほとりで緑亀を売っているお婆さんがいましたが、これを買って川に放してあげると功德があると言われていました。タイでは亀に限らず生き物はこのような対象になるようです。





バンコクから約3時間ほどで目的地のパンダキャンプに到着しました。そしてパンダキャンプのオーナーのシリポンさんの歓迎を受けました。パンダキャンプはシリポンさんが何年かかけて木を植え環境教育をする場所として、また環境にやさしい農業指導をしていきたいという大志を抱きその拠点となる森を今もって建設中です。

コテージ風の建物が点在し宿舎となっています。私が泊まったコテージはトイレと風呂場が共通でその一角にある水がめの水で行水をしなければならないことを知ってちょっとびっくりしました。でも2日目からはなんの抵抗もなく受け入れることが出来ました。昼間の気温の高い時に行水する術を習得しました。

翌日は近所の4つの小学校の生徒が引率の先生とともに40名ほど来てワークショップを行いました。9時から中込ミさんのペットボトルに穴をあけても水がこぼれないマジックから始まり自然界にあるフィボナチ数の事など小学生には少々難しかったかも知れませんが、みんなまじめにワークショップには取り組んでくれました。



午前中の部が終了し子供たちはお昼を頂き午後は中込メさんのアイヌに関するお話を熱心に聞いていました。引率の先生たちにはアイヌが食べていたシト（小麦粉とアワを練って小判形にして茹でたもの）と言う食べ物を中込メさんが作りごちそうしました。

パンダキャンプは夕方は涼しく蚊は殆どいませんでした。若林さんの奥さんは日本語の先生で授業があるのでバンコクにバスで帰られました。このパンダキャンプの中の植物についてシリポンさんが説明しな

がらハーブ系のものは摘んでいろいろ食べました。その中でも巨大な長いものが印象的でした。この長イモは一つの塊が10キロ以上あります。後にこの長イモを麵つゆとマヨネーズで食べましたが、味は本当に長イモでした。



パンダキャンプの前の家が村長さんの家でシリポンさんに案内していただきました。村長さんはネズミ、蛙、コオロギを食料として売るために飼っています。

翌日はいよいよファイカケンにシリポンさんの車とノーイさんの車2台でいきました。このファイカケンは世界自然遺産の動物保護区になっていて、宿舎があります。私たち6人とテナガザルの研究をしているタイの学生が2人だけでした。到着して午後自然観察のためにシリポンさんの運転で山に行きましたが、雨季の為ぬかるみあり、木の橋ありでスリル満点のドライブでした。途中ぬかるみにハマリそうになり行進を諦め車をおいてしばらく歩いてゆきました。

3時間ほどの観察を終え宿舎に戻ったのですが、若林さんの体調が悪くバンライの病院までシリポンさんが連れて行くことになり夕食は私たち3人とカレン族のいつもお世話をして下さるノーイさんと4人でした。通訳の若林さんがいなかったのでそのノーイさんとは身振り手振りの4時間でした。

夕食が終わって宿舎に帰ろうとしているところにシリポンさんが若林さんを連れて戻ってきました。バンライの病院に入院すると思っていた若林さんが戻ったことに驚きました。若林さんはデング熱の可能性があると病院の診察を受けたのですが、その結果は今の段階ではわからないということでまた症状も好転したということで薬をもらって戻られたようです。シリポンさんは家に戻り4輪駆動に車を変え明日のカオバンライ行きに備えて下さったようです。

ファイカケンの朝夕はとても過ごしやすく快適でした。朝は小鳥の声は聞こえるのですが、なかなか姿

をとらえにくかったです。



ここでの食事はバンライから材料すべてを持ち込みみ賄いさんの女性に料理をしてもらいました。朝食を済ませていよいよカオバンライへ出発です。昨日諦めたぬかるみも今日はすいすい登ってゆきました。でも昨日以上にスリルのあるドライブでした。途中降りては動植物の観察をして繁みの中に入ったりして歩きましたが、最後にはシリポンさんは若林さんを乗せノーイさんと私たち3人を下して車はカオバンライまで行ってしまったのです。このことを知ったのはあとのことですが、ゾウの通り過ぎた足跡？小動物の足跡？いろいろな動物らしき足跡を見ましたが、一つも本体を見ることはありませんでした。私たちのグループしかいない森林の中を4人で多少疲れ果てて登ってゆきました。もしカレン族のノーイさんが一緒でなかったらどんなに心細かったでしょうか。途中見たものの中でいろいろ珍しい植物はありました。また、蛍の幼虫がまいまいに覆いかぶさっているのを見たのは幸運でした。その大きさは女性の中指くらい大きさでした。これが蛍の幼虫であるのをはっきり知ったのは旅行を終えてゲンジボタルについて調べているうちに殆ど大きさが違うだけで正に若林さんが後で写真を見ておしゃるように蛍の幼虫のようでした。



7-8キロ歩いたところでようやくシリポンさんの車が迎えに来てくれました。気温は余り高くはなかったのですが、湿度は高く私たち日本人は疲れ果てていました。車がUターンするとしてもどこでも出来るわけではなくようやく出来る場所を定めてUターンしてカオバンライに向かいました。車で約30分ほどかかりました。この道をさらに歩いていたらどうなったことやらです。

カオバンライも自然保護区の一部で宿舎が有りとても景色のよい場所でした。イギリスからの鳥の研究者も長期間とどまって観察をしていると言っていました。ここでは野生のクジャックを見ました。



若林さんはベンチの上で休息を取っておられ先ほど私たちが見た蛍の幼虫らしき話をするととても残念そうでした。カオバンライの休憩所で宿舎で作って

もらったカウパット(焼飯)と野菜のタイ料理とシリポンさんが採集してきた野草を食べてしばらく思い思いに散策をして、再び下りの悪路をシリポンさんのスリル満点の運転で一気に宿舎まで戻りました。シリポンさんは正にメキシコ流に言えばマッコでした。

翌日は帰りの道すがらカレン族の村長さんを訪ねました。訪ねた家は村長さん別宅のようです。農作業の為の仮の小屋のようでした。このカレン族の先祖は昨日行ったカオバンライにかつては住んでいたようです。別宅は、はしごで登って2階が居間と食事を作ったり食べたりする場所になっています。柱と雨よけの屋根と床には竹を割って張ってあるだけの小屋です。強い風が吹いたら飛んでしまいそうな家でした。赤ちゃんはハンモックで寝ていました。食事の煮炊きはプロパンガスと木を燃やして燃料としていました。作物としては陸稲、キャッサバ、サトウキビ、かぼちゃ、キュウリ、等ですが、すべて種は自家採取だそうです。かなり広い面積の土地を耕作しているようです。カオバンライから移動した時に持ってこれなかった種は今では耕作していないと言っていました。



女性達は近所の池に今夜の食料の魚釣りに行っていました。餌はこの池で取った小さなエビと買ったような餌をつけていました。

遅いお昼はパンダキャンプに戻って取りました。車2台だったので私だけがノーイさん運転の車に乗りましたが、なかなかタイ語が通じません。タイ語は声調が難しいのです。ノーイさんは私がお腹がすいているだろうと御菓子を下さいました。ノーイさんの家の話を拙いタイ語でいろいろ伺っていると帰る途中ノーイさんの家の前まで案内して下さり、パンダキャンプに戻り遅い昼食を取りました。

この日の午後はカム族の方が3人見えて祭りの話などをしてくれましたが、言葉がカム族の言葉だった

ようで通訳の若林さんも難しかったようです。カム族の77歳の女性が笛を吹いてくれましたが鼻息で吹いていました。このようなことが出来るカム族最後の婦人だったようです。



夕食後は近郊の青年のコンサートが宿舎の一角の集会場であり、中込メさんはギターを借りてデビューの練習です。中込メさんのギターに合わせてデュアン・ペン(満月)をタイ語で皆で何度か歌いました。この日は雨季らしく屋根の外は雨が激しく降っていました。

翌日は午前中カレン族・カム族の集落を車で見学してコーウオン寺に行きました。私以外は何度も来ているので駐車場で皆さんは待っていました。でも寺の中は昨日の雨で水がすっかりたまっていました。

その後昨日のコンサートのメンバーである青年家をたずねました。





彼は環境にやさしい農業を目指し、野菜、タマリンド、文旦を栽培していました。昼間は農業をして日が暮れるとギターを弾いて理想の生活とと思いました。タイは国土の割に人口が少ないので土地には余裕があるようです。

シリポンさんの自宅に寄りジャックフルーツをもち取り、若林さんがバンコクに帰るのでバス停まで見送りに行きました。送った後パンダキャンプに戻りノーイさんが包丁に食用油を塗ってジャックフルーツ割りましたがまだ十分には実っていないようで味は今一でした。

午後はボタンさん(シリポンさんの奥さん)の案内で少数民族の織物工房を見学に行き栽培した綿の実からどのように民族衣装が織られるのかを見学し、その後バンライの町の市場でフルーツの女王と言われるマンゴスチンを買いました。

午後5時に予約をしてあったバンライ病院のタイマッサージに行き3時間の長いマッサージを受けました。マッサージ師さんも大変ですが、受ける身もかなりの根性が必要と思いました。

パンダキャンプに戻って夕食をしたのは8時半過ぎでしたからシリポンさんはすでにビールを飲んで出来上がっていました。娘さんにビールは取り上げられていました。

市場で買ったマンゴスチンがようやく食べれると思いきや楽しみにしていたのですが、なんと私たちがタイマッサージに行っている間に賄いの女性達が食べてしまったようでした。

翌朝近所のカレン族の方が竹細工のデモンストレーションをしてくださいました。その後朝9時過ぎにシリポンさん家族とバンでバンコクに向かいました。大学内のホテルではラダワンさんが昼食をするために待っていて下さり、甲南大学に来たことのあるラダワンさんの御弟子さん2人と6人でセントラルのタイレストランで昼食をごちそうになりました。

午後はチナタッタさんの案内で大きな市場に案内

していただき買い物をしてタイ料理の夕食をごちそうになりました。

最後の日の午前中は大学内の盆栽センターでワークショップを行いました。課題は中込ミさんによる表面張力を生かした手品と自然界にあるフィボナッチ数の解説と中込メさんによるビーズとペットボトルを使って玉ねぎ細胞を見る顕微鏡の作り方です。出席された方は環境学習を教えている先生・職員の方約30名ほどでした。皆さん熱心に聞いておられました。



午前中でワークショップは終了しホテルをチェックアウトしてホテルの食堂でラジャバット大学の先生方と昼食をしました。午後はチナタッタさんの案内で市場にドリアンを買いに行き、帰りにはチナタッタさんの邸宅によりタイ人のお金持ちの生活を垣間見ることが出来ました。夕食はMKでタイスキを食べましたが、余り感心しませんでした。ホテルに戻り荷物を整えてスリワットさんご夫妻に空港まで送っていただきました。飛行機は深夜に出発だったので成田に着いたのは翌朝9時過ぎでした。

旅を終えての感想は私にとっては100%満足する旅行でした。しかし環境教育キャンプとワークショップとの関係がわかりにくかったです。食事はすべてタイ料理でしたが、品数も多く変化に富み味も辛さ控えめで毎食美味しい食事でした。今回の私の参加目的は多少覚えたタイ語を使うこととタイにおける農業の実態を知りたかったのです。思いがけずシリポンさんという環境にやさしい農業を目指す指導者に会えたことはとても有意義でした。これからはますますタイ語を勉強する励みとなりました。私は気楽で楽しい10日間でしたが、御二人の中込さんにはご苦労があったと思います。旅行中はいろいろお気遣いをして戴き感謝しております。  
(森垣登美子記)